

第8回弥生いこいの広場隣接地利活用市民懇談会
会議録【議事概要】

日 時：平成24年12月13日（木） 午後6時半～8時15分
場 所：船沢公民館中研修室
出 席：澁谷リーダー、メンバー7名、計8名
欠 席：3名
事務局：3名

1 開会（定刻）

2 前回の会議録の確認

- ・事前に修正意見はなく、当日も修正がないことを確認した。
- ・市のホームページにおいて会議録を公開することについて了解を得た。

3 作業

- ・報告書（案）の内容について議論する。

【澁谷】

前回までの皆さんの意見をまとめて、ゾーニング図と報告書（案）をとりまとめた。今日は、事前に皆さんに報告書（案）を配布しているので、いろんな意見や提案をいただきたい。それを皆さんで話し合ってもらい、最終的なものにして市長にお渡ししたい。

この報告書（案）に対して、竹浪委員から提案が出ているので、説明をお願いしたい。

【竹浪】

事前にいただいた報告書（案）の基本方針について、了解するという前提で意見を出しているのは、ゾーンごとの整備イメージです。

1つ目は、休憩広場のところで「眺望を活かした広場とし」とあるが、前回の話し合いの中でも、将来的に眺望は失われる可能性が高いと話し合われた。「眺望を活かした広場とし」とうたってしまうと、眺望を活かすために当然、木を伐採しなければならなくなる。

ここは「眺望を活かす」ということにはしないで、自然のままに活用していたほうが良いため、削除して欲しいというのが私の意見です。

2つ目は、開拓広場の整備イメージで書かれているのは「現状のヨシを刈払い、樹木等の間伐等を行い、見晴らしの良い明るい広場とします。」で、その次のところで「どんぐりの森から苗木の移植を行います。」と、「トイレ跡等の危険及び不要な施設を撤去します。」と3点書かれている。

どんぐりの森からの移植と広場の整備について、ボランティアで行うと書かれているが、ボランティア活動の方向性が苗木の移植だけになってしまわないか心配。今後、具体的な検討がされると思うので、その時に詰めてもらったほうが良い。今の段階で書かない方が良いのではないか。

例えば、栗の木の話もあった。栗の木が何本かあれば、子供たちが来て栗拾いのできるの、5本か10本ほど移植するのは良いと思う。移植という記載は、もう少し煮詰めてからでも良いのではないか。

3つ目は、森の育みエリアのところで「どんぐりの森等から実生を集め播種します」と書かれ、その次に「苗木の移植等を行い」と書かれている。ここは、自然の木道を作るということがうたわれている関係から、実際そこで移植作業をやることにより踏みつけられ、育むことと矛盾してくるので、この部分は削除してもらいたい。文言に関わる場所は大きくこの3つ。

それから大きな2つ目だが、我々が以前議論したなかで、土地の利活用に関してどのように整備するかだけでなく、どうしたら地元の希望やソフト面での留意点、ボランティア組織をどのように維持していくか。ガイドをどのようにして養成していったら良いか。ガイドのシステムのあり方などいろいろ議論してきたが、この報告書（案）には反映されていない感じがした。だから、我々の今まで議論した内容を基に、これから具体的な計画を弘前市が作っていくことになると思うが、その際に、このようなことが検討され、これからも検討して欲しいということを整理して、ここに7つ、その他も入れれば8つ挙げた。

整備の具体化にあたっての検討・協議システムのあり方、というのを一番初めに持ってきているが、共同研究報告書の中でこの懇談会というのは、懇談会を開きながらもう1つは専門家の調査をしましょう。地元との学習等もやりましょう。そのようなことも書かれているので、イメージ図に基づいて具体化する際、検討が必要ではないかと思って一番上に挙げている。

2つ目は、持続可能な管理運営のあり方。

跡地の持つ教育機能をどのように来訪者に伝えていくか。ただ見に来るだけでなく、ガイドにいろいろと教えてもらえればわかる、ということがあったので、ガイド養成・配置、企画のあり方、ということで3つ目になった。

それから、隣接地の利活用を地域興しにどう結び付けていくか。ここは、やはり外せないと思っている。地元農産物の販売等ということで出ていた。改めて共同研究報告書を読んでみたが、元弘大の藤崎先生がその中で言及している

のは、地元で炭焼きの事業などを持ってくればどうかと提起としていた。私は炭焼きというのは、意外と良いと感じている。炭焼きについて調べてみたが、青森県で炭焼きをやっている人は23人。平成22年の生産量は144トン。隣の岩手県が482人で、生産量は3,734トン。このように、大量に炭を生産しているのが岩手県。それほど地形など変わらないが、青森県では意外と活用しきれていないと思う。だから、もっとこういうところは力を入れても良いと思うので、これから議論してもらえれば良いと思う。

それから、弥生いこいの広場との連携がどうしても必要だということは、前回の議論でもされていたので、文言として載せておけばどうかと思った。

整備過程で出てくる間伐材等の活用の工夫。これも結構大事だと思っていた。ボランティアで木を切ったり、草を刈ったりすることになると思うが、それらをいこいの広場との連携で何か利用できないか、ということは藤崎先生も提言しているので、これも載せておければと思った。

また、安全面で一番大事だと思うことが、集水塔に対する安全対策。これはぜひやって欲しい。別紙に集水塔の位置が示してある。弥生のスキー場を作るときに、こういう工事をして集水塔を配置した。1番から12番まで集水塔がある。現在2番や3番などは確認されている。確認されていないのが何箇所かある。2番、3番、4番、5番などは、森の育みエリアの中に入っている。ここを開放するとなれば、今はただ金網で覆ってあるだけだが、きちんとした対策も必要ではないかと思う。

【澁谷】

竹浪委員から今回の報告書（案）の内容について、大枠では良いが文言の修正について提案があった。それと今日を入れて8回の懇談会で出された意見の中で、これから整備していくための検討課題を書いたほうが良いのではないかな。

さらに、その中で話になった集水塔。暗渠排水の集水柵が地表面に出ている。上部が金網で覆われているだけであるので、今後育みエリアやゾーン整備を進めるにあたって、安全管理をどうしていけば良いのか。

まず、1つ目のゾーンごとの整備イメージの文言について、皆さんはどうお考えになるか。

確かに今、休憩広場の見晴らしは良いが、法面から今でも少し木が伸びてきているので、今後あの木が大きくなったらまたそれを切る、というのはおかしいだろう。眺望を生かした、というのはなくしてしまっても良いとのご意見。

【久保田】

私たちが弥生いこいの広場の駐車場から見たときに、すごい木が生い茂って

いて見えなかった。その後、そこに行った人たちが、木の上部を切ったらもつと見えるのではないかとということで、その次に行った時には、上部が切られていた。そうしたら、すごく見晴らしが良くなっていた。やはり、私たちがそこに行くのは見晴らしが良いからなのではないか。

【澁谷】

実際に、どの程度木が生えてくるかわからない。何の木が生えてくるかもわからない。この前の調査の時にはウルシもあった。ウルシはそのままにしておけないので、何らかの対処が必要だ。

ただ、竹浪さんが言うように、生えてくるものを切ったりしないほうが良いのではないか。そういうこともわかるし、見晴らしの良い場所で眺望を楽しむ人も多い中で、その辺をどうすれば良いか。

【阿部】

8月の終わり頃に行った時、犬を連れた人が駐車場に車を置いて、犬を連れながら道路を歩いていた。それで、話を聞いてみたらここから見る景色が一番良い。いこいの広場のほうに行けばあまり良くない。ここは邪魔なものがなくて良い、という話。

だから、眺望の良いところを我々がもう少し検討する必要がある。弥生いこいの広場を含め、最も景色の良いところをそういうことのために使うというなら私は良いと思う。

隣接地は、スキー場開発のために木も何もないところがある。そこが全部木で林になれば、あんまり良くないと思った。あそこを少しくらい切っても影響を与えるものではないけれども、よく考えてみるとそういう問題も含めて、皆で見てこの景色が一番良い、という所を考え出さなければいけない。

【澁谷】

あの場所に今後実生がどんどん育ち、大きな森になれば見晴らしは良くない。

今、阿部さんが言ったように、道路しかない。道路は完全に開放された空間だから、一番見晴らしが良い。あと、完全に整備されているいこいの広場の話。ただ、いこいの広場だって周りに木がたくさん生えているので、これからまた更に伸びていく。それで伸びたのをひたすら切っていく。

確かにかなり先の話を考えてみると、木は生長するため眺望はないかもしれないが、休憩広場は何となく一番人がいれる場所。二つのゾーンの真ん中、ゾーニングの図面でいえば森の恵みのゾーンと森の育みのゾーンの真ん中にある、上の開拓広場で作業したり、休憩したりするのにちょうど良い場所だという位置

付けで見たら見晴らしも良かった。

今は確かに見晴らしが良いが、将来的には眺望が妨げられる可能性が考えられる。だから、あえて「眺望を生かした広場」という言葉を残すか考えたほうが良いのか。

【久保田】

眺めが良いから行くのであって、眺めが悪くなければ、わざわざそこまで行かないと思う。

【澁谷】

例えば、開拓広場と元のスキー場の跡地だが、ここも非常に開放的な空間であるが、眺めは全然良くない。木が生い茂っていて、下が全然見られない。多分、あの木を全部切り払うともものすごく眺めが良くなる。あれはもうスキー場として使わなくなってしまって、放置されて木がどんどん生い茂ってきて、空間的には広いが、眺望という意味では良くない。ただ、休憩広場も今の開拓広場のような状況になるかもしれない。

【神（聖）】

仮に、そのような状況になるのは10年20年位先の話か。

【澁谷】

単純に考えると20年位。生長が早い木であれば、10年で視界を遮ってしまう。その時に、かつての見晴らしが良いことを知っていれば、人為的に手を加えて、という話もあるかもしれない。今から全部切って絶対見晴らしを維持する、ということではなくて、使われ方によって少し人為的な手法でという話。

【堀内】

プログラムの中で、例えば切った後の木の話をあえて載せるかどうか。

【澁谷】

眺望を活かした広場という言葉を残す時に、眺望が遮られた場合の話をすれば良い。木が成長してきて眺望が遮られてきた場合に、適切な間伐をどのようにするか。皆伐してしまうのではなくて、少し残しながら木を見ておく。

【阿部】

白神山地も何箇所かある。わざわざ台をこしらえて良い見晴らしにするよう

な施設を作っている。しかし、何も見えなくなってしまった。そういうことを考えると、維持するためにはかなりの労力が必要だということ。

その中であそこの木を切ればどうだとか、そういうことを私は問題にしているわけではない。そういうものを義務づけていくような方向を考えれば良い。整備する中で、見えやすくしておいて出来るだけ保とうというのであれば別に構わない。

【澁谷】

阿部さんの話は白神山地だけではなくて、久渡寺の市民の森も同じことが言える。展望のためのデッキを作っているが、実際には木が生い茂って見えなくなってしまい、どうしようかというところがたくさんある。

それは適切な管理をしていけば、意外と眺望が維持されたかもしれないが、そのまま放っておくと見えなくなってから、さあどうするか、となる。だから、眺望を活かしたという書きかたをしてしまうと、ひたすらそこを管理して切っていなければならない。

木を育むとか育てるというが、のべつ幕なしに木を生やしていけば良いというわけではない。適切な管理が必要になる。だから、この残された検討課題の中で、部分的にこのゾーンに対する課題が載ってくれば、皆伐ではなく適切な管理をして眺望を活かした、となる。

検討課題については、整備することを課題として挙げれば良い。

【竹浪】

眺望については、この部分を削除して課題のほうに載せてはどうか。

【澁谷】

整備イメージの中の「眺望を活かした広場」は削除し、課題のほうで取り上げる。現状は、非常に眺望は良いが、将来的に木が生長すると眺望が妨げられることが考えられる。その時に整備方針について、検討していくということを課題とする。完全に眺望という風な休憩広場ではない。決して眺望広場ではない、あくまでも休憩広場なので。

【竹浪】

では、これを残しておいて、あとで整備の仕方については検討しよう。

【澁谷】

とにかく、検討課題のところにしっかり書くということ。

(2)の開拓広場について、「どんぐりの森から苗木の移植を行います」ということで、苗木に関していろんな話があった。植えると管理が必ず付きまってくる。実生であればそれは必要ないから、関係ない話だ。

【阿部】

実生だったら、合うものは残る。植えると、死ぬのがわかっているものまで移植するので引かかる。穴を掘ってやるというやりかたは良くないのではないか。特に、ここは木が生えてこないところだ。そのうち、土が作られてきて根付く状態であればわかるが、まだ移植は早いのではないかと思う。

【澁谷】

性急な森作りをしようという話ではない。

【堀内】

程度が文言からわかりにくいというのがある。これまでの話の中でも議論されてきたので、その辺何か良い表現があればと思う。

【澁谷】

隣から持ってくるわけだ。全く別の場所から持ってくるわけではない。いろんな条件も似ているので、活着しやすいだろう。

ただ、ボランティア活動の方向性を決めてしまいかねない。どの程度、移植すれば良いのか、ということもある。

【竹浪】

皆で森を作りましょうとか、もうちょっとイメージが必要だと思う。まず、間伐をして見晴らしを良くしようということ。

次に、ここでどういうことをするのか一言あれば良い。その中で栗の木を植えたり、いろんなことがやれば良いと思う。

【澁谷】

実際に、この森に何が欲しいかという話がある。確かに議論が煮詰まっていないというのは事実。ここはイメージの提起程度に留めておいて、このとおりに内容の修正をかけようかと思う。イメージを膨らますのが一番難しい。

【阿部】

言葉が一人歩きする。青森の横内ではナラの木を切っしまい、ブナの木を

植えたら何も育っていない。文言があるとやってしまう。走り出してしまう。結果としては何にもならない。

【澁谷】

整備するイメージに対しては、課題の部分をかなり厚くしていかなければまずい。イトウの移植に関しては削除する。

では、残された検討課題。これは、皆さんからいただいた、いろんな意見を課題として扱っていなかった。

【阿部】

特に、弥生いこいの広場との連携の上で、この前出された意見の中で、もう1つ検討して欲しいことは、地元の人たちが、農産物を売る場所が欲しいと。あれを是非実現したい。ただし、いつも人を付けておくわけにはいかない。

最近、東目屋の桜庭という地区の青年団が、弘前市内に時々りんごを持って来たり、野菜を持ってきて市を開いている。私の家の裏側にもきて、ものを売っている。

そういう形で売るのは構わない。場所を、いこいの広場に来ればだめでなく、農産物を売りに来られるような、そして人がいっぱい来るようなときに、そういったことが出来るような工夫が無いだろうか。

【澁谷】

この敷地の中で、なかなかそういうような場所は得られない。そうすると、弥生の駐車場をなんとか活用したいという話は前からあった。実際に今、弘前市のほうでも街中でマルシェフォーラムを開いたりしている。あのようなものを定期的にやれるのではないか。

そういう風なものがメインになるのか、それとも弥生いこいの広場がメインになるのかは別にしても、人は来るだろう。来ればそこで物を買ったり、更に今のこの跡地にも人が入ってくる。確かに食というものは大事だ。言葉としては出ているが、やるのは地元となる。

もし、ここで2週おきに軽トラ市のようなものを開くとなれば、農家の方々はそこに出すか。

【久保田】

今、軽トラ市が流行っている。ここの地域からも結構行って売っているが、売っている人の話を聞けば、やはりお客さんは待っていると。誰々さんが大根を持ってくる、あの人キャベツが美味しいからと、お客さんが来て、この次

来るときこれ持ってきて、という注文があるらしい。

りんごなどの本当に忙しい時期は無理かもしれないが、それなりに生活のために頑張っている。りんご農家の人は難しいかもしれないが。確かに、街に持っていけば街の人は待っているかもしれないが、逆に街から山のほう、あっちに持っていく人はなかなかいない。だからすごく良い話だと思う。

農家の人の中でもこじんまりやって、野菜を作って楽しんでいる人もいる。だから、もともとそこに関わってきた本当の地元の人に関わっていければ。さっきの炭焼きの話だが飾りの炭ではなく、りんごの木の炭は少し違うみたい。灰が真っ白になる。

【澁谷】

炭焼きの話はすごく興味がある。岩手の切り炭はものすごい。岩手では葛巻が中心だ。木酢も併せて作っていて一大産業になっている。ペレットなどのバイオマスに関して、岩手のあの辺はものすごく力を入れてやっている。そういう意味でとにかく葛巻の町に入って山の方に行くと、本当に炭焼き団地だ。ここも元を正せば、薪炭林で弘前への薪などの供給地だった。そういえばここに材料があるので、炭焼きをやってもおかしくは無い話だ。

りんごの木の炭は以前、青森県でやった冬の農業というもので、冬に農家の人たちが出稼ぎに行かず、自分のところにある物を使って何かできないかと。りんごの木は当時、丸葉台が改植されてワイ化になった時に、ものすごく木が出た。路地で燃やすと低温で燃えるので、ダイオキシンの発生が高い。だから、野焼きみたいなことは止めなさい、ということになった。では、ダイオキシンの発生を抑えるためにどうしたら良いか。炭にすると大体八百度から千度まで上がるので、ダイオキシンの発生率がぐっと下がる。当時冬の農業の時に、炭窯に補助があった。ある農家が申請して実際に炭窯を作った例はある。

ちょうど炭を焼く、切り出す時期は冬だ。冬に木を切って置いておく。だから、非常に良いが、今のこの中で炭にするようなものは無いのは事実だし、ここに炭窯作って皆りんごの木の剪定枝を持ってきてやるというのはどうなのか。ただ試みとしてはおもしろい。当然、場所に関してみても、この中でそのような場所を探せるかどうかは難しい。

【竹浪】

開拓広場の上のほうの手が付けられていない木も薪炭林だ。だから、供給はいくらでもできる。りんごの枝も持ってこられるのではないか。

言葉として炭焼きとか載せなくても良い。要は、そういうことが課題としてあるということを知ること。

【澁谷】

適正な管理をした時に出た木材を有効活用する。その例として、炭焼きという方法もあるということ。

弥生いこいの広場との連携というのは、さっき言った軽トラ市なども含めて、これらを地域おこしにどう結び付けていくのかというのが今の話。

跡地の持つ教育機能をどのように来訪者に伝えていくか。

ガイドの話は前々からしていたが、さあここが整備されますよ、誰かガイドをお願いします、では多分駄目だ。やはり、ここに手をかけているボランティアの人たちが、自然にガイドになっていく。そのほうが継続していくと思う。

以前、ここに手がかかってなかった時、突然来た人が何も整備されていない森だと行く人いるの、という話になった。その時に、例えば単なる標識だけではなくて、ガイドが常駐していればどうだろうと。

【竹浪】

やはり、弥生いこいの広場との連携であそこに建物があるわけだから、そこでガイドを送り出してくれるようになればどうなのかな。

白神などは、お金をとってガイドする。建物があるから、そこにガイドが待機するなど、そういうこともできるのではないか。

【澁谷】

久渡寺の市民の森のような形になれば良いのではないか。今までここは弥生いこいの広場だけの話であったものを、隣接地も含めてそのようなものをやってもらえば良い。ここは弥生いこいの広場抜きにしては考えられない場所だから、何をするにしても。連携の工夫というのは、この管理やガイド、地域おこしなど全て関わってくる話。

では、最初に戻って、整備の具体化にあたっての検討・協議システムのあり方に関して、皆さんどのような意見があるか。せっかく我々が議論を重ねていて提言を出したとしても、手が離れてしまうとどうなるのか。

また、集水塔の話が残っている。実際、この図面の中で全部見つけるのは至難の業。やはり、暗渠排水の起点になっている所にある。

集水塔は登って行った時に、落ちるという状況だ。でも、確かに似つかわしくはない。場所によっては塔を囲んで、周りが全部水だという所もある。上の網も相当古くなってきていて、落ち葉がいっぱいあり危険なのは事実。

皆さんと入る前に実際に入って、塔の位置を全部確認した。No.10は突然ある。他の物に関しては、探さないとなかなか見つからないような状況。見てしまうと、これは何とかしないと駄目だという気にはなる。その何とかする方法

というのが、あの飛び出ているやつを現状の地表で切ってしまうのが良いのか。それともあのままにして人が立ち入らないようにするほうが良いのか。

【竹浪】

マンホールのように、鉄の蓋を被せてしまえば一番良い。

【澁谷】

それが最も良いだろう。だが、ものが結構大きい。また、あれを人力で壊すというのはまず無理な話。発電機やハンドカッターなど、いろんな物を持って行かなければいけない。

危険であることは重々わかっている。実際に暗渠排水は活着しているので、そのような中継点として排除できない。表面上の金網などが経年劣化などで駄目になっているので、安全管理のためにそれは新しくしよう。それで、人が入らないように注意看板を立てるなどの手段、手立てをして下さいという言い方しかできない。

【竹浪】

こういうことも、意見がない中で万が一事故があったりすれば、それこそ責任になる。

【澁谷】

だから、そのような危険がある調整池などに関しては、最初から立ち入らないようにする。今回の防災ゾーンのくくりで最初から何もしないという話をした。ただ、その中で森の恵みのゾーンというのは積極的な管理をして、色々なことをやっていく。育みのゾーンに関しては森づくりを進めていきたい、という思いがあって、その中で、表面に水が出ている所、湿地になっている所に関しては、木材の間伐の有効活用という言い方が正しいのかどうかは別にしても、木道などで遷移を見守る場所も必要ではないか。

この中で、具体的に書いてあるのは木道だけ。多分これを書かないと何かわからない。あとは園路3、拠点1、2とかしか書かないが。

【阿部】

木道の件は非常に良い提案だと思っている。

金がないので全く構わないとなっても困るし、構うとなってもお金がかかるし。そこが非常に難しい所だと思う。

【澁谷】

これだとなかなかイメージがつかみにくい。例えば、この観察広場や休憩広場、木道などをもう少しわかるくらいにしてくれないかと言われている。

木道は木の橋を作っておく位ですが、この休憩広場ですよ。ただ真っ平らな場所で良いのか。それとも、さっき言ったような間伐材を利用した切り株ベンチ等を置くのか。過度な休憩セット導入は行わない。例えば、都市公園にあるような東屋があっても、雪で壊れてしまい仕方ない。

舗装に関しても、わざわざコンクリートを敷いたりする必要もないだろう。

【阿部】

この計画そのものが持続可能だ、ということが非常に重要だと思う。

座頭石のほうにある遊歩道に年一回、私も草刈りに行っている。だけど、全然構わないからどうしようもない。

そうすると、そういう持続可能な管理、そういうものをやらないと誰も利用しなくなってしまう。

【澁谷】

持続可能な管理が一番難しいことだと思う。今回この報告書の中で、非常にボランティアという言葉が出ている。自分たちで作り上げていこうということ。自分たちが、持続可能な管理整備にしていかなければいけない。ただ、どうしてもマンパワーだけでは無理なところに関しては、最低限の工事委託等をしていかなければいけない。

皆様のご意見をもらい、ゾーニングや整備の方向は一応作った。竹浪さんのほうから言われた検討課題をきちんと書かないと「絵に描いた餅」になってしまうので、ここを厚くして、報告書としてとりまとめた。

また、集水塔の位置はあえて入れる必要はあるか。

【竹浪】

ない。

【澁谷】

そうすれば、文言として記載する。

では、今回この提案書に対して竹浪さんからご意見をいただいたので、それを課題として付け足す。この利活用のマップに対して、なにかあるか。

【竹浪】

私の木道のイメージはもうちょっと広いイメージで、周回ができるようなイメージを持っていた。木道をずっと歩いて行き、この園路1のほうに戻って来られるような、そういうイメージはどうか。

【澁谷】

園路1にタッチするのは、法面がきつくてすごく難しい。

【阿部】

木道といっても、下に木が生えてくるというようなものでなくて、ここの湿地を保つためにそういう区分けがされている。橋げたを作った木道というのは、湿地を保つためには役に立たない。大勢で木道を作った時には、そういうのをちゃんと計算して、木道を作っても良い場所にだけ作っている。そうでなく作った八甲田の湿原は、乾いて大変。この前、木道作りは木を並べるだけで良い、という提案をしたときに、これは使えると思った。

だから、観察のために行かなくても良いのではないかと思っている。

【澁谷】

高層湿原とここを比べるのはちょっと違うのですが、要は、不透水層をぶち抜いてしまうと、水が抜けてしまうので湿地が無くなる。

ここは、岩木山の伏流水が表面に出る場所だ。多分、その下に不透水層がかなりあるはず。実際に基礎、丸太を打って横に渡して上を歩くようなタイプにすると、阿部さんが言うように多分駄目。

並べていって、それが動かないように、井桁のようにする分にはそんなにダメージも与えなくて良い。方法に関しては実際にやるときの話。

【竹浪】

これは全てが湿地ではない。乾いているところもある。木道と散策路と付けておいて、行き止まりではなく、また戻って来なければいけない。それが気になっている。何かしらの方法で戻って来られるなら行ってみるかな、となる。

【澁谷】

そのとおりだ。でも、実際にここを歩いたことがあると、ぐるっと回ってまた戻るというのは結構つらい話。ここは全部人工的な斜面だから。

【竹浪】

沢の所は結構低くてアプローチしやすい場所になっている。園路1と書いているちょうどこの辺に出口を作れば、ぐるっと回って来られる。

【澁谷】

一番のネックは、拠点4と書いてあるここ。不法投棄の監視エリアという書き方しかできなかったが。

【堀内】

優先順位は、2のアの具体的な検討・協議システムにまわすべきか。もしくは、拠点4を優先順位として先に書いてしまうか。

【澁谷】

前回イメージ案を作った時に、事業期間と誰がやるのかを皆さんにお示した。どうしても、長期的にならざるを得ない場所だ。

【堀内】

その辺のバランスが余り決められない。ただ、この段階でゾーニングと項目化することができたので、その中で取り上げられるものとして、不法投棄の話など気になる点である。

【澁谷】

最重点課題として、不法投棄の対策を講じなければならない。なかなかそれが上手くいかないというか、山にモノが捨てられてきたという印象がある。

それと、短期的にそこに人の目を向けるためにも、整備しなければならない。優先課題を付け、最重点事項を検討課題の中で色付けしていく。

【堀内】

基本方針などにも入れないで、次の段階でピックアップしたものだけもっていくか。基本方針の中に、ゾーニングして項目化してこういう風なものが出てきて、プラスその中でも基本方針から外れるのか、ちょっと種類が違う文言として項目として入れるかどうか。

【澁谷】

跡地利用を我々がどうするのか、をメインにしている。それで、皆さんの意見を踏まえて、このような整備が良いのではないかと。

でも、そこにはいろんな課題がある。課題を基本方針に載せるのは、馴染まない。そこは、一つ掌握して課題として考えてほしい。その中の優先順位をどう決めるか。我々がやっていく中で目立ってくる問題が、安全面とかごみの話となる。

【阿部】

ここで具体的なものが必要かもしれないけれども、ここの中で話し合われて納得したことは景色が良いので見てもらいたい、ということ。懇談会の中で出された基本の部分は削除しないでほしい。

こんな事をやりたい、あんな事をやりたいなどあるかもしれないが、その部分は大事にしてもらいたい、というのが私の意見。

【澁谷】

最初にこの懇談会が始まる時に、出た意見に対する否定はやめよう。どうすれば出来るかということを考えなければ、前に進まないという話をした。だから、方策を考えていければ良い。

【竹浪】

結局、この整備イメージの中に、出されたいろんな言葉が入っているので、これで良いのではないか。

【澁谷】

皆さんからのご意見は出尽くした感じだが、何かこれだけは言っておきたいというのがあれば。

【神（聖）】

この中に開拓広場という字が出てくるが、開拓というのは木を切り倒して、そこに何かを人工的に作っていくという風に聞こえる。開拓という言葉が気になる。

【澁谷】

開拓広場の名前は考える。

この前行った時は春だったから、たまたまわらびが採れたけど、森のほうを見ればコナラの木がいっぱいあって、これはきのこがたくさん採れる。そういうこともあって森の恵みという言葉にした。だから、開拓という言葉は自分でも難しいかなと思ったが。

【久保田】

弥生の人たち、もともと開拓民として入っているから開拓という言葉そのものに抵抗を感じるかもしれない。

【澁谷】

後日、先ほどの課題などを再考して加筆することとしたい。

4 閉会

最後に、報告書の最終校正の確認と、12月25日（火）の市長へ報告書を手交する日時を確認し、第8回懇談会を閉会した。